

A 【身体障がい】

1 概要

(1)住まいや暮らしについて

- ・一緒に住んでいる人は、「配偶者(妻・夫)」が61.3%と最も高く、次いで「子ども」が28.5%となっています。
- ・また、ひとり暮らしも13.7%となっており、前々回、前回と比較を行うと、前回から今回で2.8ポイント増加しています。

表 一緒に住んでいる人

	平成27年	令和2年	令和7年	増減(27→7)	増減(2→7)
ひとり暮らしの比率	10.2%	10.9%	13.7%	3.5	2.8

- ・今後の生活については、前回、今回調査(以下、「今回」と表記)とも「今のままで良い」が最も高くなっていますが、「入所施設で暮らしたい」が今回は12.0%と、前回調査と比較して6.1ポイント増加しています。

表 今後の生活

	平成27年	令和2年	令和7年	増減(27→7)	増減(2→7)
「入所施設で暮らしたい」の比率	3.7%	5.9%	12.0%	8.3	6.1

- ・賃貸住宅を借りられなかった経験は、全体では1.8%となっていますが、集合住宅(賃貸)にお住まいの方は9.6%が「ある」と回答しています。貸せない理由としては、「高齢者の人には貸せないと言われた」「家賃が高かった」が最も高くなっています。
- ・地域で生活するために必要な支援は、前回、今回とも「経済的な負担の軽減」「必要な在宅サービスが適切に利用できること」の順となっています。
- ・介助する方の年齢をみると、70代以上では今回は49.1%となっており、前回の35.2%と比較すると、13.9ポイント増加しており、介助者の高齢化が進んでいます。

表 介助する人の年齢

	平成27年	令和2年	令和7年	増減(27→7)	増減(2→7)
介助者の年齢「70代以上」の比率	38.4%	35.2%	49.1%	10.7	13.9

(2)日頃の活動状況について

- ・普段の活動は、前回、今回とも「特に何もしていない」が最も高くなっています。
- ・現在の仕事は、「一般の会社等に常勤で就労している(障がい者雇用ではない)」「一般の会社等でパート・アルバイトとして働いている(障がい者雇用ではない)」の割合は、前回、今回ともほぼ同じですが、「特例子会社または障がい者雇用で働いている」が今回は16.8%となっており、前回より6.1ポイント増加しています。

表 現在の仕事

	平成27年	令和2年	令和7年	増減(27→7)	増減(2→7)
「特例子会社または障がい者雇用で働いている」の比率	-	10.7%	16.8%	-	13.9

- ・今後、収入を得る仕事をしたいかどうかについては、「仕事をしたい(続けたい)」が23.8%と前回より11.6ポイント増加しています。

表 今後、収入を得る仕事をしたいかどうか

	平成27年	令和2年	令和7年	増減(27→7)	増減(2→7)
「仕事をしたい(続けたい)」の比率	-	12.2%	23.8%	-	11.6

- ・また、今後の就労意向についてみると、「一般の会社等に常勤で(引き続き)働きたい(障がい者雇用ではない)」が今回は33.3%と、前回より15.7ポイント増加しています。

表 今後の就労意向

	平成27年	令和2年	令和7年	増減(27→7)	増減(2→7)
「一般の会社等に常勤で(引き続き)働きたい(障がい者雇用ではない)」の比率	-	17.6%	33.3%	-	15.7

- ・障がいのある人への就労支援として必要なことは、前回・今回とも「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」が最も高くなっています。

(3)外出・活動等について

- ・外出の頻度は、週3日以上の外出が今回は58.4%となっており、前回と比較して8.7ポイント増加しています。

表 外出の頻度

	平成27年	令和2年	令和7年	増減(27→7)	増減(2→7)
「週3日以上」の比率	-	48.7%	58.4%	-	8.7

- ・車で移動する理由は「時間や行き先で柔軟な行動が可能のため」が46.0%と最も高く、困ることは「ガソリン等の燃料費が高騰していること」が39.1%となっています。

- ・今後やりたいことは、「旅行」「買物」の順となっており、前回・今回とも同じ順序です。
- ・スポーツについては、「今はしていないが、過去にしていたことがある」が34.9%と最も高くなっています。スポーツをしない理由は、「スポーツや運動をしたいと思わない・好きではない」「体を動かすことが得意ではない」の順となっていますが、「どのようなスポーツや運動が合っているかわからない」「一緒に取り組む仲間がいない」も1割以上となっています。

(4)差別・権利擁護について

- ・差別を受けた経験は、「ある」が今回は16.4%(前回16.4%)と同率となっています。

表 差別を受けた経験の有無

	平成27年	令和2年	令和7年	増減(27→7)	増減(2→7)
差別を受けた経験が「ある」比率	-	16.4%	16.4%	-	0

- ・差別を受けた場所は、「外出先」が47.3%(前回45.5%)と最も高く、次いで「学校・仕事場」が32.3%(前回31.2%)となっており、前回とほぼ同率となっています。
- ・障がいがあることが原因で、発生した問題は「特にない(67.4%)」を除くと、「希望する仕事につけなかった」が4.0%となっていますが、前回の18.2%と比較すると14.2ポイント減少しています。

表 障がいがあることが原因で、発生した問題

	令和2年	令和7年	増減(2→7)
希望する仕事につけなかった	18.2%	4.0%	-14.2
差別用語を使われた	15.6%	3.2%	-12.4

- ・「成年後見制度」の周知度は、今回は37.9%とほぼ同率となっています。

表 成年後見制度の周知状況

	平成27年	令和2年	令和7年	増減(27→7)	増減(2→7)
「内容も知っている」の比率	40.6%	36.6%	37.9%	-2.7	-0.7

- ・「合理的配慮」の周知度は、「内容まで知っている」「聞いたことはあるが内容までは知らない」の合計が今回は40.9%となっており、前回の33.4%と比較すると、7.5ポイント増加しています。

表 合理的配慮の周知状況

	平成27年	令和2年	令和7年	増減(27→7)	増減(2→7)
「内容も知っている」+「聞いたことがある」の比率	-	33.4%	40.9%	-	7.5

(5)災害時の対応について

- ・避難の手助けや誘導をしてくれる人が、身近にいるかどうかについては、「昼間・夜間ともにいる」が今回は46.9%ですが、前は56.7%であったため、9.8ポイント減少しています。

表 災害時に手助けや誘導をしてくれる人の有無

	平成27年	令和2年	令和7年	増減(27→7)	増減(2→7)
「昼間・夜間ともにいる」比率	45.1%	56.7%	46.9%	1.8	-9.8

(6)保健福祉サービス・施設サービスについて

- ・市の情報は、「市のおしらせ(広報など)」が48.8%と最も高く、次いで「ほとんど得られていない」が23.6%となっています。また、提供してほしい情報は、30代以下～50代では「スマートフォンで見ることが出来る媒体での提供」が最も高く、年齢により差が見られます。
- ・福祉サービスで困っていることは、「特になし」「制度のしくみがよくわからない」の順となっており、順位は前回と同じです。

表 福祉サービスで困っていること

	平成27年	令和2年	令和7年	増減(27→7)	増減(2→7)
特になし	44.0%	36.2%	39.4%	-4.6	3.2
制度のしくみがよくわからない	21.4%	29.6%	26.9%	5.5	-2.7

- ・困ったことを相談する場所については、「ない」が18.0%(前回14.7%)とやや増加しています。
- ・相談する相手は、「家族や知人、友人」が80.9%と最も高くなっています。また、相談しない理由としては、「相談する場所がわからない(わからなかった)」が43.1%と最も高く、次いで「相談の必要を感じない(感じなかった)」が36.3%となっており、前回と順位の変化はありません。
- ・基幹相談支援センターの周知度は、「知らなかった」が87.1%となっています。
- ・地域で自立して暮らすために必要なことは、生活全般では「手当や年金などの経済的支援」が25.5%、就労・訓練・教育では「リハビリテーション」が20.2%、社会的活動では「福祉バス(市内循環バス)」が28.7%で、前回と1位の項目は同じです。
- ・障がいや福祉に関する言葉の認知状況は、「ヘルプマーク・ヘルプカード」は、内容まで知っている方の割合が38.7%(前回17.2%)と21.5ポイント増加していますが、それ以外は前回とほぼ同様です。
- ・ヤングケアラーの疑いのある人は、全体の3.4%であり、その半数近くが毎日となっています。
- ・障がい福祉サービスを受けることによる変化としては、「障がい福祉サービスを受けていない」が24.3%と最も高く、次いで「わからない」が24.1%となっています。但し、40代では「ある程度高まった」が27.3%と高くなっています。

B 【知的障がい】

1 概要

(1)住まいや暮らしについて

- ・一緒に住んでいる人は、「母」が71.6%(前回83.0%)と最も高く、次いで「父」が63.7%(前回76.1%)となっており、特に前回と比較して割合が低下しています。

表 一緒に住んでいる人

	平成27年	令和2年	令和7年	増減(27→7)	増減(2→7)
母	85.8%	83.0%	71.6%	-14.2	-11.4
父	78.7%	76.1%	63.7%	-15.0	-12.4

- ・今後の生活については、「今のままで良い」が44.1%と最も高く、次いで「同じ障がいのある人と、グループホームなどで暮らしたい」が36.3%となっています。

表 今後の生活

	平成27年	令和2年	令和7年	増減(27→7)	増減(2→7)
「同じ障がいのある人と、グループホームなどで暮らしたい」の比率	26.0%	21.3%	36.3%	10.3	15.0

- ・賃貸住宅を借りられなかった経験のある方はいませんでした。
- ・地域で生活するために必要な支援は、前回、今回とも「経済的な負担の軽減」が39.2%(前回64.4%)と最も高く、次いで「障がい者に適した住居の確保」が38.2%(前回45.2%)の順となっています。

表 地域で暮らすために必要な支援

	平成27年	令和2年	令和7年	増減(27→7)	増減(2→7)
経済的な負担の軽減	-	64.4%	39.2%	-	-25.2
障がい者に適した住居の確保	-	45.2%	38.2%	-	-7.0

- ・介助する方の年齢をみると、70代以上では今回は20.0%となっており、特に前回の10.4%と比較すると、9.6ポイント増加しており、介助者の高齢化が急速に進んでいます。

表 介助する人の年齢

	平成27年	令和2年	令和7年	増減(27→7)	増減(2→7)
介助者の年齢「70代以上」の比率	8.9%	10.4%	20.0%	10.1	9.6

- ・介助を受ける上で問題になっていることは、「家族の精神的、身体的負担が大きい」が40.0%と最も多く、前々回より20.2ポイント増加しています。

介助を受ける上で問題になっていること

	平成27年	令和2年	令和7年	増減 (27→7)	増減 (2→7)
「家族の精神的、身体的負担が大きい」の比率	19.8%	26.1%	40.0%	20.2	13.9

(2)日頃の活動状況について

- ・普段の活動は、「仕事をしている(就労継続支援などの「福祉的就労」も含みます)」が52.9%が最も高く、前回の33.5%と比較して19.4ポイント増加しています。

表 普段の活動

	平成27年	令和2年	令和7年	増減(27→7)	増減(2→7)
「仕事をしている(就労継続支援などの「福祉的就労」も含みます)」の比率	-	33.5%	52.9%	-	19.4

- ・現在の仕事は、「特例子会社 または障がい者雇用で働いている」が38.9%(前回42.9%)と最も高くなっています。なお、「就労継続支援A型」「就労継続支援B型」をあわせて37.0%(前回44.4%)となっており、7.4ポイント低下しています。

表 現在の仕事

	平成27年	令和2年	令和7年	増減(27→7)	増減(2→7)
「特例子会社または障がい者雇用で働いている」の比率	-	42.9%	38.9%	-	-3.0
「就労継続支援A・B」の回答率		44.4%	37.0%		-7.4

- ・現在の仕事の悩みについては、「職場の人間関係がうまくいかない」では13.0%(前回20.6%)、「自分の考えや思ったことが伝えられない」が11.1%(前回20.6%)と、低下しています。

表 現在の仕事の悩み

	平成27年	令和2年	令和7年	増減(27→7)	増減(2→7)
「職場の人間関係がうまくいかない」の比率	-	20.6%	13.0%	-	-7.4
「自分の考えや思ったことが伝えられない」の回答率		20.6%	11.1%		-9.5

- ・今後、収入を得る仕事をしたいかどうかについては、「仕事をしたい(続けたい)」が59.8%(前回60.7%)となっています。また、今後の就労意向についてみると「特例子会社または障がい者雇用で(引き続き)働きたい」が36.1%となっています。
- ・障がいのある人への就労支援として必要なことは、前回・今回とも「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」が最も高くなっています。

(3)外出・活動等について

- ・外出の頻度は、ほぼ毎日が今回は67.6%(前回75.5%)となっており、前回と比較して7.9ポイント減少しています。

表 外出の頻度

	平成27年	令和2年	令和7年	増減(27→7)	増減(2→7)
「週3日以上」の比率	-	75.5%	67.6%	-	-7.9

- ・車で移動する理由は、「時間や行き先で柔軟な行動が可能のため」が37.0%が最も高く、困ることは、「特にない」の次に「ガソリン等の燃料費が高騰していること」38.9%となっています。
- ・今後やりたいことは、「旅行」「買物」の順となっています。
- ・スポーツについては、「している」が37.3%と最も高くなっています。スポーツをしない理由は、「からだを動かすことが得意ではない」が38.9%と最も高く、次いで「場所や環境がない」が27.8%となっています。
- ・現在の生活で困っていることは、「人とのコミュニケーションがうまくとれない」が33.3%、次いで「将来にわたる生活の場(住居)、または入所施設があるかどうか不安」が32.4%となっています。

(4)差別・権利擁護について

- ・差別を受けた経験は、「ある」が今回は45.1%(前回55.9%)と10.8ポイント低下しています。

表 差別を受けた経験の有無

	平成27年	令和2年	令和7年	増減(27→7)	増減(2→7)
差別を受けた経験が「ある」の比率	-	55.9%	45.1%	-	10.8

- ・差別を受けた場所は、「学校・仕事場」が56.5%(前回58.1%)となっており、前回とほぼ同率となっています。
- ・障がいがあることが原因で、発生した問題は「特にない(40.2%)」「わからない(18.6%)」を除くと、「差別用語が使われた」が11.8%(前回34.3%)と、22.5ポイント減少しています。

表 障がいがあることが原因で、発生した問題

	平成27年	令和2年	令和7年	増減(27→7)	増減(2→7)
「差別用語が使われた」の比率	-	34.3%	11.8%	-	-22.5

- ・「成年後見制度」の周知度、「合理的配慮」の周知度は、「内容まで知っている」「聞いたことはあるが内容までは知らない」の合計がいずれも前回より低くなっています。

(5)災害時の対応について

- ・避難の手助けや誘導をしてくれる人が、身近にいるかどうかについては、「昼間・夜間ともにいる」が今回は58.6%ですが、特に前回調査から14.4ポイント減少しているのが特徴です。

表 災害時に手助けや誘導をしてくれる人の有無

	平成27年	令和2年	令和7年	増減(27→7)	増減(2→7)
「昼間・夜間ともにいる」比率	75.7%	73.0%	58.6%	-17.1	-14.4

(6)保健福祉サービス・施設サービスについて

- ・市の情報は、「市のおしらせ(広報など)」が31.4%と最も高く、次いで「ほとんど得られていない」が25.5%となっています。また、提供を希望する情報提供の方法は「広報紙等による情報提供」が33.3%と最も高くなっています。
- ・福祉サービスで困っていることは、「特になし」「制度のしくみがよくわからない」の順となっています。

表 福祉サービスで困っていること

	平成27年	令和2年	令和7年	増減 (27→7)	増減 (2→7)
特になし	22.0%	21.3%	36.3%	-14.3	-15.0
制度のしくみがよくわからない	29.1%	29.8%	27.5%	-1.6	-2.3
サービス提供事業者が少ない	28.3%	21.8%	16.7%	-11.6	-5.1

- ・困ったことを相談する場所については、「ある」が65.7%となっています。
- ・相談する相手は、「家族や知人、友人」が64.2%と最も高くなっています。また、相談しない理由としては、「相談の必要を感じない(感じなかった)」が28.6%となっています。前回は「相談する場所がわからない(わからなかった)」が48.6%と最も高くなっていましたが、今回は14.3%と34.3ポイント低くなっています。

表 相談しない理由

	平成27年	令和2年	令和7年	増減 (27→7)	増減 (2→7)
相談する場所がわからない(わからなかった)	-	48.6%	14.3%	-	-34.3

- ・基幹相談支援センターの周知度は、「知らなかった」が77.5%となっています。
- ・地域で自立して暮らすために必要なことは、生活全般では「グループホーム」が41.2%、就労・訓練・教育では「生産や作業を行い、工賃を得られる通所施設」が24.5%、社会的活動では「外出支援サービス(付き添い・介護等)」が30.4%と最も高くなっています。
- ・障がいや福祉に関する言葉の認知状況は、「ヘルプマーク・ヘルプカード」は、内容まで知っている方の割合が38.2%(前回23.4%)と14.8ポイント増加していますが、それ以外は前回とほぼ同様です。
- ・ヤングケアラーの疑いのある人は、全体の5.9%となっています。
- ・障がい福祉サービスを受けることによる変化としては、「わからない」が27.5%と最も高く、次いで「ある程度高まった」が25.5%となっています。

C 【精神障がい】

1 概要

(1)住まいや暮らしについて

- ・一緒に住んでいる人は、「母」が47.7%(前回47.4%)と最も高くなっています。「ひとり暮らし」は14.2%(前回9.7%)とやや増加しています。

表 一緒に住んでいる人

	平成27年	令和2年	令和7年	増減(27→7)	増減(2→7)
「ひとり暮らし」の比率	5.2%	9.7%	14.2%	9.0	4.7

- ・今後の生活については、「今のままで良い」が44.3%と最も高く、次いで「在宅福祉サービスを利用してひとりで暮らしたい」が19.3%となっています。

表 今後の生活

	平成27年	令和2年	令和7年	増減(27→7)	増減(2→7)
「(在宅福祉サービスを利用して)ひとりで暮らしたい」の比率	13.9%	8.2%	19.3%	5.4	11.1

- ・賃貸住宅を借りられなかった経験のある方は6.3%で、集合住宅(賃貸)に居住する方は18.5%となっています。貸せない理由は、「(連帯)保証人がいないので貸せないと言われた」が63.6%と最も高く、次いで「障がいのある人には貸せないと言われた」が45.5%となっています。
- ・地域で生活するために必要な支援は、前回、今回とも「経済的な負担の軽減」が67.0%(前回66.8%)と最も高く、次いで「相談対応等の充実」が42.6%(前回41.0%)の順となっています。

表 地域で暮らすために必要な支援

	平成27年	令和2年	令和7年	増減 (27→7)	増減 (2→7)
経済的な負担の軽減	-	66.8%	67.0%	-	0.2
相談対応等の充実	-	41.0%	42.6%	-	-7.0

- ・介助の必要性は、「介助は必要ない」が42.0%となっています。介護者の年齢をみると、70代以上では今回は31.6%(前回30.6%)となっています。

表 介助する人の年齢

	平成27年	令和2年	令和7年	増減(27→7)	増減(2→7)
介助者の年齢「70代以上」の比率	29.5%	30.6%	31.6%	2.1	1.0

(2)日頃の活動状況について

- ・普段の活動は、「仕事をしている(就労継続支援などの「福祉的就労」も含みます)」が47.7%が最も高く、前回の25.0%と比較して22.7ポイント増加しています。

表 普段の活動

	平成27年	令和2年	令和7年	増減(27→7)	増減(2→7)
「仕事をしている(就労継続支援などの「福祉的就労」も含みます)」の比率	-	25.0%	47.7%	-	12.7

- ・現在の仕事は、「特例子会社 または障がい者雇用で働いている」が31.0%と最も高くなっています。
- ・現在の仕事の悩みについては、「特に悩みや不満はない」が27.4%(前回24.5%)と最も高く、前回最も高かった「職場の人間関係がうまくいかない」が、前回の36.7%から13.1%に低下しています。

表 現在の仕事の悩み

	平成27年	令和2年	令和7年	増減(27→7)	増減(2→7)
「職場の人間関係がうまくいかない」の比率	-	36.7%	13.1%	-	-23.6

- ・今後、収入を得る仕事をしたいかどうかについては、「仕事をしたい(続けたい)」が62.5%(前回48.0%)となっています。また、今後の就労意向についてみると「特例子会社または障がい者雇用で(引き続き)働きたい」が32.7%となっています。
- ・障がいのある人への就労支援として必要なことは、前回・今回とも「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」が57.4%(前回72.9%)と最も高くなっています。

障がいのある人への就労支援として必要なこと

	平成27年	令和2年	令和7年	増減(27→7)	増減(2→7)
「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」の比率	-	72.9%	57.4%	-	-15.5
「自立に見合った給与の保証」の回答率		62.7%	43.2%		-19.5

(3)外出・活動等について

- ・外出の頻度は、ほぼ毎日が44.9%と最も高く、前回(41.3%)とほぼ同様です。
- ・車で移動する理由は「時間や行き先で柔軟な行動が可能のため」「他の人に気を遣わず移動できるため」が各々42.9%、困ることは、「ガソリン等の燃料費が高騰していること」が49.5%と最も高くなっています。
- ・今後やりたいことは、「旅行」「買物」の順となっています。
- ・スポーツについては、「今はしていないが、過去にしていたことがある」が45.5%が最も高くなっています。スポーツをしない理由は、「体を動かすことが得意ではない」が34.5%と最も高く、次いで「経済的に余裕がない」が30.2%となっています。
- ・現在の生活で困っていることは、「自分の健康や体力に自信がない」が42.0%となっています。なお、前回は「人とのコミュニケーションがうまくとれない」が50.5%と最も多くなっていますが、今回は38.1%と12.4ポイント低下しています。

表 現在の生活で困っていること

	平成27年	令和2年	令和7年	増減(27→7)	増減(2→7)
「自分の健康や体力に自信がない」の比率	-	46.9%	42.0%	-	-4.9
「人とのコミュニケーションがうまくとれない」の比率		50.5%	38.1%		-12.4

(4)差別・権利擁護について

・差別を受けた経験は、「ある」が今回は43.8%(前回43.9%)とほぼ同率となっています。

表 差別を受けた経験の有無

	平成27年	令和2年	令和7年	増減(27→7)	増減(2→7)
差別を受けた経験が「ある」の比率	-	43.9%	43.8%	-	-0.1

・差別を受けた場所は、「学校・仕事場」が55.8%(前回47.7%)となっており、8.1ポイント増加しています。

表 差別を受けた場所

	平成27年	令和2年	令和7年	増減(27→7)	増減(2→7)
「学校・仕事場」の比率	-	47.7%	55.8%	-	8.1

・障がいがあることが原因で、発生した問題は、「特にない(34.7%)」が最も高く、次いで「希望する仕事につけなかった」が16.5%となっています。

・成年後見制度の周知度は、「内容まで知っている」「聞いたことはあるが内容までは知らない」の合計が75.0%(前回68.9%)、「合理的配慮」の周知度は、「内容まで知っている」「聞いたことはあるが内容までは知らない」の合計が56.3%(前回33.6%)と、前回より22.7ポイント増加しています。

表 合理的配慮の周知状況

	平成27年	令和2年	令和7年	増減(27→7)	増減(2→7)
「内容も知っている」+「聞いたことがある」の比率	-	33.6%	56.3%	-	22.7

(5)災害時の対応について

・避難の手助けや誘導をしてくれる人が、身近にいるかどうかについては、「昼間・夜間ともにいる」が今回は38.6%ですが、**前々回は56.7%であったため、18.1ポイント減少**しています。

表 災害時に手助けや誘導をしてくれる人の有無

	平成27年	令和2年	令和7年	増減(27→7)	増減(2→7)
「昼間・夜間ともにいる」比率	56.7%	46.0%	38.6%	-18.1	-7.4

(6)保健福祉サービス・施設サービスについて

- ・市の情報は、「市のおしらせ(広報など)」が40.3%と最も高く、次いで「市の福祉の窓口」が34.1%となっています。また、「ほとんど得られていない」も25.6%となっています。
- ・提供を希望する情報提供の方法は、「広報紙等による情報提供」が43.8%と最も高くなっていますが、20～40代は「スマートフォンで見ることが出来る媒体での提供」が最も高くなっています。
- ・福祉サービスで困っていることは、「制度のしくみがわからない」が38.1%と最も多くなっています。

表 福祉サービスで困っていること

	平成27年	令和2年	令和7年	増減 (27→7)	増減 (2→7)
特になし	14.8%	17.9%	27.8%	13.0	9.9
制度のしくみがよくわからない	52.2%	50.0%	38.1%	14.1	11.9

- ・困ったことを相談する場所については、「ある」が57.4%となっています。
- ・相談する相手は、「家族や知人、友人」が79.2と最も高くなっています。また、相談しない理由としては、「相談する場所がわからない(わからなかった)」が43.6%(前回56.7%)と最も高くなっていますが、13.1ポイント前回より低下しています。

表 相談しない理由

	平成27年	令和2年	令和7年	増減 (27→7)	増減 (2→7)
相談する場所がわからない (わからなかった)	-	56.7%	43.6%	-	-13.1

- ・基幹相談支援センターの周知度は、「知らなかった」が90.9%となっています。
- ・地域で自立して暮らすために必要なことは、生活全般では「手当や年金などの経済的支援」が44.9%、就労・訓練・教育では、「就労の場の確保、開拓」が33.5%、社会的活動では「交通機関の利用や文化活動への経済的支援」が39.2%と最も高くなっています。
- ・障がいや福祉に関する言葉の認知状況は、「ヘルプマーク・ヘルプカード」は、内容まで知っている方の割合が56.8%(前回25.0%)と31.8ポイント増加していますが、それ以外は前回とほぼ同様です。
- ・ヤングケアラーの疑いのある人は、全体の6.8%となっています。
- ・障がい福祉サービスを受けることによる変化としては、「ある程度高まった」が29.0%と最も高く、次いで「わからない」が22.7%となっています。

D【障がい児】

1 概要

(1)子どもの状況

- ・手帳などの所持状況は、身体障害者手帳が9.3%、療育手帳が32.2%、精神障害者保健福祉手帳が0.7%、指定難病2.1%、発達障がい62.9%となっています。
- ・支援が必要な項目は、「他者に自分の気持ちを伝えることが困難」が54.3%と最も高く、次いで「読み書きが困難(学習障がいによるものを含む)」が45.0%となっています。
- ・医療的ケアを受けている方が1.4%で、内容としては「人工呼吸器(レスピレーター)」が60.0%と最も高くなっています。医療的ケアを行うための設備がないため利用できない施設は、「利用できない施設はない」が40.0%を除くと、「保育園・幼稚園・認定こども園」「児童館」「小学校・中学校・高等学校」が各々20.0%となっています。

(2)外出について

- ・外出の頻度は、ほぼ毎日が96.4%と最も高くなっています。外出時の交通手段は、「徒歩」が70.7%と最も高く、次いで「自家用車(乗せてもらう)・オートバイ」が64.3%となっています。
- ・車で移動する理由は「時間や行き先で柔軟な行動が可能のため」が56.1%と最も高く、困ることは「特にない」が44.7%と最も高く、次いで「ガソリン等の燃料費が高騰していること」が40.7%となっています。

(3)住まいや暮らしについて

- ・一緒に暮らしている人は、「母」が99.3%と最も高く、次いで「父」が91.4%となっています。
- ・保護者の就労状況は、「フルタイム勤務1人、パートタイム・時短勤務が1人」が47.9%と最も高く、次いで「フルタイム勤務1人」が28.6%となっています。
- ・保護者が就労時にお子さんが過ごしている場所は、「学校」が51.4%と最も高く、次いで「放課後等デイサービス事業所」が50.7%となっています。「1人で過ごしている」は10.7%です。
- ・保護者が就労する上で困っていることは、「就労と、療育施設の利用・通学・通院とのスケジュール調整が難しい」が41.4%と最も高く、次いで「新たに就労したり、勤務日を増やすことが出来ない」が25.7%となっています。
- ・介助者は、「母」が68.6%と最も高く、次いで「父」が45.7%となっています。年齢は、「40歳代」が54.6%と最も高く、次いで「30歳代」が29.9%となっています。健康状態は、「健康」が55.7%と最も高くなっています。
- ・介助を受ける上で問題となっていることは、「特にない」が50.5%と最も高く、次いで「家族の精神的、身体的負担が大きい」が20.6%となっています。
- ・悩みの相談場所は、「家族・親族」が70.0%と最も高く、次いで「通所している療育施設」が60.0%となっています。
- ・療育施設や行政に充実を求めることは、「支援の専門性や質の向上」が57.9%と最も高くなっています。
- ・サービスの利用意向は、「放課後デイサービス」が47.9%と最も高く、次いで「補装具」が39.3%となっています。
- ・ヤングケアラーについては、該当する可能性のある方の割合は14.3%となっており、そのうちの半

数が毎日支援を行っています。時間は、「1時間未満」が45.0%と最も高くなっていますが、2時間以上も40.0%となっています。

(4)日頃の活動状況について

- ・平日の日中の過ごし方は、「放課後等デイサービス(就学後のお子さん)」が44.3%と最も高く、次いで「小学校・中学校(特別支援学級)」が38.6%となっています。
- ・通園や通学で困っていることは、「特になし」が54.3%と最も高く、次いで「通園・通学が大変である(送迎を含む)」が22.9%となっています。
- ・スポーツや運動については、「している」が52.1%と最も高く、次いで「していない」が43.6%となっています。

(5)差別・権利擁護について

- ・差別を受けた経験は、「ある」が30.7%となっています。
- ・差別を受けた場所は、「学校」が60.5%と最も高く、次いで「保育園・幼稚園・認定こども園」「買い物や外食の際」が各々27.9%となっています。
- ・障がいがあることが原因で、発生した問題は、「特になし」が75.7%と最も高く、次いで「希望した学校に入学できなかった」が5.0%となっています。

(6)保健福祉サービス・施設サービスについて

- ・市の情報は、「児童発達支援や放課後等デイサービス」が47.1%と最も高く、次いで「市のおしらせ(広報など)」が43.6%となっています。また、「ほとんど得られていない」も21.4%となっています。
- ・提供を希望する情報提供の方法は、「スマートフォンで見ることが出来る媒体での提供」が66.4%となっています。
- ・「どのサービス提供事業者を選んだらよいかわからない」が30.0%と最も高く、次いで「制度のしくみがわからない」が27.9%となっています。
- ・障がい福祉サービスを受けることによる変化としては「ある程度高まった」が45.0%と最も高く、次いで「高まった」が31.4%となっており、障がい福祉サービスの効果が大きいのが特徴です。

E【一般】

1 概要

(1)障がいのある人との交流などについて

- ・障がいのある人と日常生活の中で接する機会については、「家族や親戚に障がいのある人がいる・いた」が30.8%と最も高く、次いで「職場で一緒に働いている・働いた」が23.6%となっています。また、前回2番目に高かった「ふれ合う(接する)機会はなかった」は今回は20.7%となっています。

表 障がいのある人と日常生活の中で接する機会

	平成27年	令和2年	令和7年	増減 (27→7)	増減 (2→7)
「家族や親戚に障がいのある人がいる・いた」の比率	32.7%	29.4%	30.8%	-1.9	1.4
「ふれ合う(接する)機会はなかった」の比率	22.9%	25.3%	20.7%	-2.2	-4.6

- ・障がいのある人が困っているのを見かけたときの行動は、「自ら声をかけ、困っていることについて手伝ったことがある、または手伝えると思う」が39.9%となっています。

表 障がいのある人が困っているのを見かけたときの行動

	平成27年	令和2年	令和7年	増減 (27→7)	増減 (2→7)
「自ら声をかけ、困っていることについて手伝ったことがある、または手伝えると思う」の比率	38.0%	23.2%	39.9%	1.9	16.7

- ・障がい等に関することについての体験や学んだ経験は、「車いすの使い方」が33.2%と最も高く、次いで「上記のようなことを学んだことはない」が29.3%と、前々回調査と比較して25.3ポイント低下しています。

表 障がい等に関することについての体験や学んだ経験

	平成27年	令和2年	令和7年	増減 (27→7)	増減 (2→7)
「上記のようなことを学んだことはない」の比率	54.6%	44.1%	29.3%	-25.3	-14.8

- ・障がいのある人と一緒に活動した経験の有無は、「ある」が47.1%、「ない」が42.8%となっています。障がいのある人と一緒に活動した場所は、「職場の中で」が64.3%と最も高く、次いで「学校の授業で」が25.5%となっています。

- ・障がいのある人への差別・偏見については、「ある」の割合が最も高いのは精神障がい者が45.7%、次いで知的障がい者が42.8%となっています。経年で比較すると、前回から今回調査で「ある」の割合が低減した種別が多く、知的障がい、精神障がい、難病患者、発達障がいなどで9ポイント以上低下しています。

表 障がいのある人への差別・偏見「ある」の回答率

	平成27年	令和2年	令和7年	増減 (27→7)	増減 (2→7)
身体障がいのある人	42.1%	39.8%	33.2%	-8.9	-6.6
知的障がいのある人	56.6%	54.4%	42.8%	-13.8	-11.6
精神障がいのある人	59.5%	55.4%	45.7%	-13.8	-9.7
難病患者の人	32.7%	34.8%	24.5%	-8.2	-10.3
発達障がいのある人	49.8%	46.9%	37.0%	-12.8	-9.9
高次脳機能障がいのある人	-	-	28.8%	-	-

- ・障がいのある人に対する理解の深まりについては、「かなり深まっている」「ある程度深まっている」が56.2%となっています。

表 障がいのある人に対する理解の深まり

	平成27年	令和2年	令和7年	増減 (27→7)	増減 (2→7)
「かなり深まっている」「ある程度深まっている」の比率	56.6%	49.5%	56.2%	-0.4	6.7

- ・障がいのある人が就労するために必要な条件は、「その人に合う仕事の紹介、あっせん」が65.4%(前回60.1%)と最も高く、次いで「周囲の理解、職場の人間関係形成」が63.0%(前回64.4%)となっています。
- ・障がいのある人とない人がお互いに理解し合い、共に生きる社会をつくっていくために必要なことは、「障がいの状況に応じて働けるよう、職場の就労環境を改善する」が46.2%(前回42.5%)と最も高く、次いで「障がいのない人が障がいについての理解を深められるよう、情報提供を充実する」が42.3%(前回32.0%)となっています。

(2) ボランティアについて

- ・ボランティア活動についての関心の有無は、「関心がある」「ある程度関心がある」あわせて55.8%(前回62.4%)となっています。

表 ボランティア活動についての関心

	平成27年	令和2年	令和7年	増減 (27→7)	増減 (2→7)
「関心がある」「ある程度関心がある」の比率	-	62.4%	55.8%	-	-6.6

- ・障がいのある人に対するボランティア活動の参加状況は、「たびたびある」「何度がある」あわせて19.7%(前回21.4%)となっています。

表 障がいのある人に対するボランティア活動の参加状況

	平成27年	令和2年	令和7年	増減 (27→7)	増減 (2→7)
「たびたびある」「何度がある」の比率	-	21.4%	19.7%	-	-1.7

- ・障がいのある人に対するボランティア活動への参加意向は、「活動したい」「機会があれば活動したい」あわせて42.8%(前回40.2%)と半数近く方が希望しています。

表 障がいのある人に対するボランティア活動への参加意向

	平成27年	令和2年	令和7年	増減 (27→7)	増減 (2→7)
「活動したい」「機会があれば活動したい」の比率	-	40.2%	42.8%	-	2.6

- ・希望する活動内容は、「話し相手や安否の確認」「災害時の避難や救助」が各々33.7%となっています。
- ・ボランティア活動に参加しようとした際に困ることは、「どんな活動があるのかわからない」が47.2%と最も高く、次いで「どのような手伝いをしたらいいのかわからない」が42.7%となっています。

(3)福祉のまちづくりについて

- ・障がい福祉に関する言葉の認知状況は、「内容まで知っている」は成年後見制度で24.0%(前回28.1%)と最も高く、他は1桁台となっています。

表 障がい福祉に関する言葉の認知状況「内容まで知っている」の回答率

	平成27年	令和2年	令和7年	増減 (27→7)	増減 (2→7)
障害者権利条約		-	4.8%	-	-
障害者週間(12月3～9日)	1.5%	2.1%	2.4%	0.9	0.3
災害時避難行動要支援者名簿	-	4.1%	7.2%	-	3.1
福祉避難所	-	5.2%	6.3%	-	1.1
成年後見制度	29.8%	28.1%	24.0%	-5.8	-4.1
ふれあい広場チャレンジパースポーツ(市内で開催)	4.4%	3.4%	5.8%	1.4	2.4
白井市障害者計画	-	0.8%	1.9%	-	1.1
白井市障害福祉計画・障害児福祉計画	-	0.8%	2.4%	-	1.6

- ・障がいのある人、ない人がお互いの理解のために必要なことは、「小さなときから、障がいのある人と一緒に学んだり、遊んだりする」が48.1%と最も高く、次いで「職場で障がいのある人が雇用される」が44.2%となっています。
- ・合理的配慮の認知状況は、「知らない」が63.0%(前回67.5%)と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容までは知らない」が23.6%(前回22.4%)、「内容まで知っている」は10.6%(前回5.7%)となっています。

表 合理的配慮の認知状況の回答率

	平成27年	令和2年	令和7年	増減 (27→7)	増減 (2→7)
内容まで知っている	-	5.7%	10.6%	-	4.9
聞いたことはあるが、内容までは知らない	-	22.4%	23.6%	-	1.2
知らない	-	67.5%	63.0%	-	-4.5

- ・合理的配慮が必要な場面は、「障がいのある人が公共交通を使うとき」が77.9%と最も高く、次いで「障がいのある人が買い物をするとき」が58.7%となっています。
- ・障がいに関するマーク等の認知状況は、「知っている」が最も高いのは、「障害者のための国際シンボルマーク」が81.7%であり、次いで「ヘルプマーク」が63.5%の順となっています。

1 概要

(1)障がいのある人との交流などについて

- ・障がいのある人と接する機会の有無は、「いいえ」が58.2%、「はい」が41.1%となっています。
- ・障がいについて考えたことの有無は、「ある」が70.3%、「ない」が16.0%となっています。
- ・障がいのある人が困っているのを見かけたときにとる行動は、「困っている人に頼まれて手伝った、または手伝えると思う」が36.6%と最も高く、「自ら声をかけ、困っていることについて手伝った、または手伝えると思う」が21.2%となっています。
- ・障がいのある人に対する理解は、「ある程度深まっている」が52.4%と最も高く、次いで「かなり深まっている」が10.8%となっています。
- ・障がい福祉に関する言葉の認知状況は、「内容まで知っている」は合理的配慮で9.1%と最も高くなっています。
- ・障がいのある人が公共施設などを利用しやすくするために必要なことは、「点字ブロック、音声式信号(音で知らせる信号)の導入」が52.6%と最も高く、次いで「歩道の設置・拡幅(幅をひろくすること)」が37.2%となっています。
- ・障がいに関するマーク等の認知状況は、「知っている」が最も高いのは、「障害者のための国際シンボルマーク」が77.1%であり、次いで「ヘルプマーク」が53.9%の順となっています。